

令和4年度 1人1台端末の活用による実践事例

学 校 名		岡山県立倉敷古城池高等学校		
実践者等		原 園 人 士	実践日	令和4年6月28日
実践場面 (教科・科目(単元名)、学校行事等)		英語科		
対象生徒(学年等)		普通科2年		
育成を目指す資質・能力		☐ 知識・技能 ☐ 思考力・判断力・表現力等 ☒ 学びに向かう力・人間性等		
分類	授 業 中	☒ クラウドやアプリの活用 ☐ デジタルデータの保存 ☒ 思考やデータの可視化		
		☐ データの共有や共同編集 ☐ 対話を充実させる活用 ☒ 思考を促す活用		
		☒ 表現を充実させる活用 ☐ 課題のやり取りと評価の支援 ☐ 効率化や省力化		
		☐ その他 ()		
	家庭学習	☐ 振り返り ☐ 探究 ☐ 反転学習 ☐ 補習・定着		
実践の内容				

〈本時のねらい〉

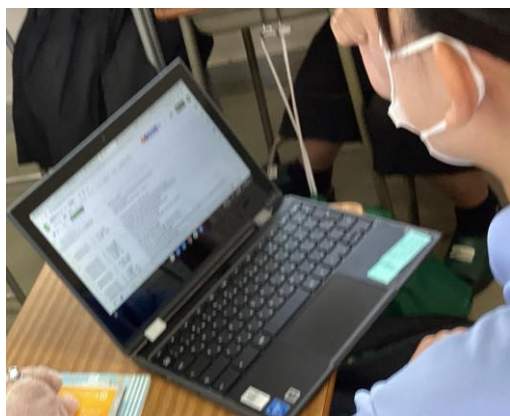
教科書で扱われた内容について、批判的な視点を持って問題点を洗い出し、身近なことと関連付けながらその問題点について説得力のある意見を述べる(Formsで回収)とともに、他者の意見についても共有・考察(Formsに関連したスプレッドシートで)し、問題点についての理解を深める。

〈取り組み〉

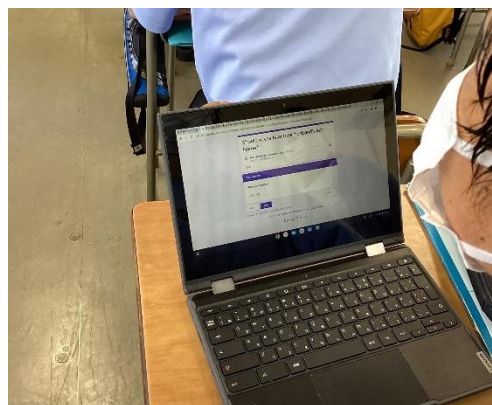
教科書の題材として「女性初のねぶた師」「女性初のカーレーサー」が取り上げられていたことから、「女性でなかったとしたら、教科書に取り上げられていたかどうか」と問いかけをすることで、教材の内容に対して主体的に考える場面を与えた。それをきっかけにジェンダーに関する身近なことを取り上げながら、ジェンダー平等について考えさせた。そして、様々な意見を共有し、批判的な視点を持たせようとした。



- 1 「妻が夫の苗字に変えるべきか？」という質問に対する意見と理由について、Forms を活用し、英語で回答させた。



- 2 グループ内で、1の回答がスプレッドシートに出力されたものから、最も説得力のある内容を1つ選ぶ。その際、メンバー内の意見を取り入れて修正することも可能とする。



- 3 全員に共有された Jamboard（グループ数のフレームを用意）にグループで決めた意見と理由を入力し、他の班の意見と理由に対して、それぞれが付箋機能を利用してコメントし合う。

〈全体〉

端末・アプリケーションの操作は慣れてきたこともありスムーズであったが、生徒は、キーボードによる英文の「入力」に関しては、少し戸惑いがあったようだ。

Forms の入力結果をスプレッドシートで共有することは可能だが、各自が作成した英文から目的の回答を探すことに時間が掛かっていた。グループごとに、メンバー内の意見を取り入れて修正することも可能としたが、生徒の活動の時間配分が難しく、改善の余地があると感じた。その他の学習活動は、概ね、ねらい通りであった。

【本時と家庭学習との連動】

特になし